ミネソタ便り

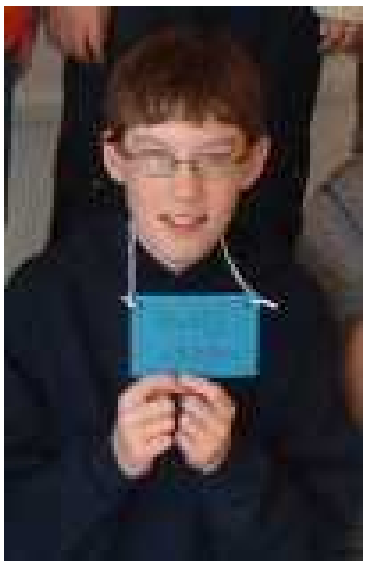
▼05・01・17　平 野 茂 樹

❻ ミネソタ Winter とインディアン

●●●・・・・

ミネソタ北部の冬は厳しい。この自然に対しこの地の人たちが、厳しさに適応する能力を自分の身体で感じているかと言えばそうではないように私には映った。短い間でしかないがこれはわかる。

長い文明の歴史を持つ祖国から持ち込んだ道具でカバーしながら入植の地で生活し、代を重ねてきている「よそもの」と言うのが実感であろう。特にこの冬の季節に対しそう思っているにちがいない。



アメリカ全土には、独立するまでに５００以上の種族のインディアンが住んでいた事実があるという。その数は言語圏で区別されているようだ。ほとんど原始的な道具以外は持っていなかった。しかし、広大な大陸のすべての自然環境に適応しながら生活してきたのである。しかも、この地方のインディアンは、この厳しい冬を他の動物や植物とともにやり過ごしてきたのである。まだ、人間に野生が残っているのである。

●●●・・・・

現地の人たちはインディアンの自然に適応した生活能力（ＤＮＡ）に対して疑うことなく尊敬している。

寒さの中で生きていくには、賢さと注意深さが必要なことは、みな良く知っており、それが出来るインディアンを尊敬しているのである。同時にこの寒さの中で越冬する動植物に対する畏敬の念は、むかし民話をつくった人々と今も同じ気持ちであろう。

ふと、日本でも内地から北海道に入植したとき、アイヌ人に同じような気持ちを抱いたのではないかと思った。

ミネソタ州に住んでいたインディアンの種族は、チッペワ族と言われているが、これは１６５９年、最初に出会った白人（フランス商人）の聞き間違えでオジブウェ族というのが正しい呼び名だそうである。同じ発音を聞く人は自国の発音で理解するので長い間そうなっていたそうだ。ニッポンがヤポン、ヤーパン、ジャパンとなっているように。

この種族は、アルゴンキン語圏にはいる。五大湖の北西部を中心にいまのミネソタ州、ウィスコンシン州、カナダのオンタリオ州に拠をなしており、いまでもアメリカ、カナダの両政府が定めた居住区に集中している。

●●●・・・・

オジブウェ自身は自分たちをアニシナーベと呼んでいるそうで、これは、「人類」という意味だそうだ。ほとんどの種族は自身を自族語で「人類」と呼んでいるので区別するためオジブウェのアニシナーベと言ったそうだ。そう言えば、あまり関係ないが、かの有名なレオナルド・ダ・ビンチさんも区別するためレオナルド地方のダ・ビンチさんとよばれていましたね。

ミネソタの名前は、ダコタ族の「空の色に染まった水」を意味する言葉から取られており、それは州旗に現れている。模様は日本の国旗と同じであり、中央の丸い部分を除く白地に当たる部分が真っ青である。ついでに州の愛称は North Star State [北の星]であるが、異名は「アメリカの冷蔵庫」。冷蔵庫の中には冷凍庫があるが、ミネソタの International Falls がそれで Ice Box City と呼ばれ最も寒いところとされている。ミネソタ州で記録された最低気温は、最近で 1996 年２月２日、タワー市で記録した華氏－58 度（摂氏－50 度）である。

●●●・・・・

どのくらい寒いかは言葉であらわすのはまずできないので数値で示すので想像してください。すべて華氏であるが真冬の室温（70度～80度）と外気温（－30度～０度）との差は約100度である。摂氏で言うと約56度の差である。ほとんどの家庭がこの差を現す温度計を時計のように置いており、温度差を確認しながら生活している。

外気温から室温を守るために部屋を暖めるわけであるが、温度が逃げていかないように出来るだけ魔法瓶のような密封した構造にしてある。ドアはもちろん２重である。潜水艦の出口のように２段階で外に出るよう中部屋を持つ２重ドアである。冬場、この中部屋は丁度冷蔵庫として使うのに適しているようで買いだめ食料がたくさん置いてある。窓を開けるなどということはこの地方ではない。店も同じである。

私は、まだ経験していないが、このような構造なので、逆に夏は暑いでしょうね　と聞くと冷房がまた大変だと言う。この地方は冬を乗り越えるため夏を犠牲にした建物の構造でもある。ただし、蚊帳の役目は果たしているようだ。名物の蚊が進入する隙間はない。蚊いっぴき通さぬ構造なのである。

●●●・・・・

インディアンは、シンプルに「冬の家」、「夏の家」を別につくって移動しただけのことではあるが。道具が多くなると大変ですね。

私がいる部屋は地下室である。地下室といっても昼間光が入り、電灯をつけなくても良いように天井から６０センチぐらいのところが地面の高さになっている。採光のための窓がついている。地下室は井戸のように夏冷たく、冬暖かい極上の環境なのである。

ほとんどの家が２、３階建てであるが、外から見るとのっぽの１、２階建ての家に見えるのはこのためだった。玄関に階段がついているのも飾りではない。

寒さのため生じる自然現象は多々あるが、ダイアモンドダストはここでは普通で、極寒地特有のものがある。私が紹介してもらったもので経験したものは３つである。

ステイしているの周辺の風景

●●●・・・・

ひとつは Sun Dog　と言う自然現象である。天気が良い昼間、気温が極端に下がってきたとき遥か彼方の地平線の上に見えるもので、垂直に上っている虹のようなものである。虹と言っても架け橋型ではなく、７色でもない赤寄りの３色程度のものでまっすぐ垂直にのびているのである。

　これは辞書にも載っており簡単に１行「小

規模で不完全な虹」とだけ書いてあった。Parhelion とも言うらしいので引いたらもっと簡単に一言「幻日（げんじつ）」とある。Mock Sun で引くと＝Parhelion だけである。この辞書をつくったひとの似顔絵が描けそうな気がしてきた。もちろん Wanted だ。

きょう（２月７日）特に寒い日だと思っていたら Sun Dog が現れた。それも大きい二匹だ。悦んで写真を撮ったが笑われた。撮っても写らないよと。確かに見たのにビデオカメラの液晶画面にでてこない。パソコンに入れてみるとただ天気の良い空の風景だけであった。赤外線写真なら写ったのであろうか？　それとも遠景すぎるのであろうか？でも機械には写らないで欲しいとも思った。いままで、これでも、自分では、エンジニアだと思っていたが、このような感じ方をするようになったところをみると、もうすっかり気の抜けた Non Alcohol Engineer である。

私は、急に現代の民話がつりたくなった。題は、簡単に「オジブウェの虹」である。狼に育てられた人間の話のように、インディアンに育てられた白人が成長後白人の世界にもどるのであるが、この Sun Dog を見て七色に見えると言うと仲間から不思議がられる物語である。このときインディアンの言葉をつくり出してしまうのである。この色は、もちろん鳥には見えるように物語る。色の名前を思いめぐるだけでも楽しい。

●●●・・・・

酷寒体験の二つ目、三つ目は、いずれも自動車に関するもので「スクエアタイヤ」と「ブラックアイス」と言うものである。

長時間止めておくと自動車のタイヤが寒さのため凍り、地面に接している部分が平らになりしばらく走って温度が上がらないとパンクした車に乗っているような震動を感じる現象「スクエアタイヤ」である。重いものをつんだままで置いておくと大変である。

もうひとつは、排気ガスが路面に吹きつけられて凍る「ブラックアイス」で黒い煤色の汚い氷である。

すこしは寒さの実感がわいていただけたでしょうか？　まだミネソタ Winter の話はつづきますが、本日はこの辺で。
ではまた。

にあるとして赤外線の新しい３、４色の名前